



3年を切った北陸新幹線開業、その終着地点となる敦賀市！

# 港湾都市敦賀を目指す活気見えず

北陸新幹線金沢―敦賀間の開業まで3年を切った。今回、新幹線の終着地点となる敦賀市に焦点を当てる。

日本海を中心に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきた敦賀市。先人たちの努力と恵まれた立地条件、潤沢な原発マネーをもって福井県第2位の都市として揺るぎない繁栄を見せると思いきや、現状は住みたい、訪れたいまちに程遠い。その要因を探る。

## 宝の持ち腐れ！ 測上市政

敦賀市は古くから大陸との交易港や北前船の寄港地として栄え、フェリー定期航路やコンテナ船航路が開設されている敦賀港をはじめ、京阪神及び中京方面の大都市地域や丹後・山陰地域と北陸地域を結ぶ鉄道網、北陸自動車道や舞鶴若狭自動車道といった広

域道路網が整備されるなど日本海側の交通の要衝として発展してきた。日本海を中心に位置する恵まれた立地条件をもつて、これ以上ない交通の要衝である。

令和5年春、いよいよ北陸新幹線金沢―敦賀間が開業する。その終着地点となる交通

の要衝、敦賀市。嶺南最大の都市の山側に、新幹線の高架橋が連なつて立ち上がつてきた。敦賀駅舎は長さ約300m、高さ約35m、県内最大規模となる。全国的に珍しい3層構造の上下乗り換え施設となり、新幹線駅舎と在来線駅舎が連絡通路で結ばれる。

これだけ条件が揃えば県都福井市に次ぐ経済状況かと思いきや、製造品出荷額、商品販売額も2位の座は得られず、従業員数はあわら市にも劣る6位。人口6万4044人(令和2年4月末現在)は鯖江市にも抜かれ5番目では、合併しなかつたからは言い訳にならず嶺南2市4町のリーダーとは言い難い。北陸新幹線開業を見据え嶺南の市町は観光

新庁舎は、本年度末に完成、令和3年度には新庁舎で業務を行いつつ、現庁舎の解体と外構工事を行い、令和4年度にグランドオープンを予定。

新庁舎建設工事  
(令和2年7月)



客を呼び込もうと躍起になっているが、最終地点の敦賀市がこの体たらくでは先が思い